

【言語文化学科 英語基礎学力型】

[I]

[1]	例えば、英語を話す家の赤ん坊はボールのことを「ババ」とか、猫のことを「キキ」と言うかもしれない。			
[2]	「パパ、抱っこ」のように、意図した文の最も重要な語以外を話さないような話し方。(39字)			
[3]	(1)	(2)	(3)	(4)
	b	c	d	a
[4]	1.	2.	3.	4.
	a	b	c	d

[II]

1.	2.	3.	4.	5.
a	b	c	d	a

[Ⅲ]

〈ハーフ〉という言葉が「日本人離れした欧米系の容姿、英語能力や国際性」といったイメージに限定されてしまうことの問題点は、大きく分けて2つある。

第1の問題点は、「欧米系」以外の容姿を持つハーフたちの個性や文化への関心が高まらないという点だ。課題文では、テレビで活躍するハーフのタレントを「日常的で親しみやすい存在」、ハーフ女性のモデルや俳優を「若い女性たちが見習いたい、自分になりたい憧れの対象」と述べているが、日本のマスメディアで活躍するハーフたちの大多数は欧米系の容姿の持ち主である。しかし実際には、東アジア系・南アジア系・中東系・アフリカ系など、欧米系以外の容姿を持つハーフたちが数多く日本で暮らしており、彼らの個性や嗜好、習慣、文化への関心が一般的な日本人の間で高まっているとはいえない。

第2の問題点は、「英語能力や国際性」以外の能力や長所への関心が高まらないという点だ。課題文では、〈ハーフ〉の人たちは「日本語だけでなく英語などの外国語も話せて、生まれながらに『外見だけでなく考え方もグローバル』である」というイメージが広まっている」と述べられているが、現実には、複数の言語を使いこなす能力を持たないハーフも多数存在するだろう。また、ハーフであれば考え方がグローバルになるとは限らず、むしろ日本で長期間生活しているハーフたちの中には日本の伝統文化や地域文化を深く理解し、日本の文化の魅力を多くの人に伝えてくれる人がいるかもしれない。

以上で述べた2つの点をまとめると、〈ハーフ〉に対する限定的なイメージは、本来は多様な背景を持つ彼らを、日本人にとって理解しやすい「型」にあてはまる部分でのみ受容するにとどめ、現実の彼らの個性や能力への関心や理解を妨げるという問題点があると私は考える。(745字)